

刻む会

たより

NO. 75

2019年12月20日

長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

共同代表

井上洋子・木村道江

事務局 宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内) TEL0836(21)8003
カンパ振込先 ゆうちよ銀行 □座番号 01590・7・32405

年会費 《正会員》個人3,000円 団体5,000円
《賛助会員》個人1,000円 団体2,000円

ホームページ <https://www.chouseitankou.com>
メール chouseitankou@gmail.com

吉崎市芦辺港遭難者日韓合同慰霊祭に参列

共同代表 井上洋子

10月10日(木)～11日(金)に吉岐「天徳寺」で行われた遭難者日韓合同慰霊祭に井上洋子共同代表、山内弘恵書記が参列した。駐福岡大韓民国総領事をはじめ、韓国慶州市水谷寺の僧侶たち、日本曹洞宗宗務庁、吉岐の島や九州から僧侶多数が参列されており、盛大な法要となった。

とりわけ、吉岐市長の「慰霊の言葉」は日本の行政自治体はこうあるべきという、朝鮮半島の犠牲者に対する真摯な姿勢が示され、感銘を受けた。「吉岐市としまして、旧芦辺町の時代から今日に至るまで、情報収集・遺骨発掘調査・慰霊碑建立助成・各慰霊祭参加など、人道的見地並びに地方公共団体の使命感をもって、陰陽と問わず、物心両面から惜しむことなく、支援と協力を行ってまいりました。・・・未だ祖国の土にお眠りできないことを痛恨極まりなく存じている次第であります」とあり、長生炭鉱の当該市である宇部市の対応と比べ雲泥の差を感じた。

この度の法要には韓国の「日帝強制動員被害者支援財団」から金理事長はじめ4名の出席もあり、天徳寺、水谷寺、「遺骨奉還宗教者市民連絡会」と話し合いが行われ、韓国への遺骨奉還について、一日も早く実現するよう力を合わせてそれぞれの立場で日本政府へ要求していくことが決定された。同時に「刻む会」としても支援財団に対しこの好機を逃さず、長生炭鉱遺骨奉還に向け協力をお願いした。

慰霊祭は吉岐市の協力はもちろんのこと、吉岐市の各店舗から協賛出店もされ、市民の間に広く日韓友好の輪が広がっていることも実感した。



慰霊碑

山内弘恵(左)・井上洋子(中)
小林知子さん(右)
遺骨奉還宗教者市民連絡会世話人

大韓民国人長崎県吉崎市芦辺港遭難者遺骨問題とは？

終戦直後、朝鮮半島へ引き揚げ途中に玄界灘で船の海難事故で亡くなったご遺骨が、当時、吉岐・対馬の海岸に流れ着いた。吉岐市の天徳寺では位牌を作り事故翌年から慰霊法要と執り行い、70年以上にわたって続けてきており、現場付近の清石浜には住民によって67年に慰霊塔も建立された。また、98年からは韓国の水谷寺(慶州市)と天徳寺で1年ごとに合同慰霊祭を行っている。

76年、広島市の市民団体によって86柱のご遺骨が発見され、さらに、厚労省の調査によって83～84年に対馬で45柱のご遺骨が発見された。国はその後、この131柱のご遺骨を埼玉県の金乗院に依頼して保管していたが、天徳寺住職もメンバーである遺骨奉還宗教者市民連絡会の働きかけもあり、昨年2018年吉岐・天徳寺へ戻ったという経緯がある。現在も、継続してご遺骨の韓国への奉還が実現するよう、国へ働きかけを行っている。

なお、「刻む会」も遺骨奉還宗教者市民連絡会のメンバーであり、今年の帰還法要より参加している。

韓国からの現地訪問！

近年、韓国の様々な団体による訪問が相次いでいます。今回も内岡貞雄顧問による現地案内で2組の団体が来られ、感想を寄せてくださっていますのでご紹介します。

2019年10月25日(金) 5.18民族統一学校(25名)

ソウル在住の方々を中心に大学生、一般人など年齢層はさまざまでした。

【帰路バスの中での感想】 通訳： 嚴章範(オム・ジャンボム)さん

○女性(大学生)：長生炭鉱水没事故のことははじめて知りました。追悼広場や古い碑、ピーヤの見える海岸などを歩きました。一番思ったことは「刻む会」を中心とした日本の方がかわってくださっているということでした。日本の皆さんがいなかったら、このような取り組みはできなかったのではと思いました。今日のことは決して忘れません。

○男性(社会人)：5.18の運動をしている私たち、長生炭鉱の水没事故の取り組みをしておられる皆さん、私たちは『同志』です。これからも『同志』として共に活動していきたいと思いました。帰国したら多くの仲間に長生炭鉱のこと、今、取り組まれていることをお伝えします。

○女性(大学生)：ピーヤの見える海岸を歩いていたら、石炭の破片を見つけました。「ああ、本当にここで石炭を掘っていたんだな」と思いました。長生の海底炭鉱のことは初めて知りましたが、現地を見たこと、知ったことをしっかり記憶していきたいと思います。



2019年11月22日(金) トンポネット市民団体(45名)

今回の参加者は小・中学生の皆さんが7~8人いました。

追悼ひろばにて 許鳳兆(ホ・ボンジョ)さんのお話

【帰路バスでの感想】 通訳 嚴章範(オム・ジャンボム)さん

○男性(30歳代)：今日一日は、私の人生でとても意義ある日でした。今日見たこと感じたことを多くの人たちに伝えます。

○男性(中学2年生)：歴史は知っているつもりだったけど、実際に現場を見て驚くこと、感じるものが多くありました。友達にも話したいです。

○女性(40歳代)：ピーヤの見える海岸を見て、胸が締め付けられるようです。今こうしてマイクを持っていても、涙が出てきて言葉になりません。

(「死者への手紙」：金有腹さん直筆(韓国語)の返信を見て、涙が出てきたと言われた男性の方もおられました)

○女性(30歳代)：追悼碑建立や毎年の追悼式、そして今取り組まれている海底下の遺骨返還等は、良心的な日本の方々がおられるからこそ出来ているのだと思いました。カムサハムニダ。



※釜山トンポネットとは：プサン市を中心に活動する市民団体。正式名称は「釜山同胞民族文化・民族教育ネットワーク」。韓国内だけでなく海外にも活動の幅を広げ、同じ朝鮮民族として在日朝鮮・韓国人との交流や、韓国内で朝鮮学校に対する理解と支援を広げる活動を行う。(資料：朝鮮学校を支える会・北九州)

日本国内からの現地訪問！

日本国内からも多くの方々がフィールドワークに来てくださいました。

2019年11月5日(火) 合唱団ソレイユ(13名)

合唱団ソレイユは東京で弁護士事務所の関係者で作られた合唱団だそうです。

2020年7月5日に開催予定のコンサートの中で長生炭鉱水没事故を題材に作成された池辺晋一郎さんが作られた合唱組曲「海の墓標」を歌うために、現地を視察しに来られました。

前日、広島市の平和公園を訪問され、山口へ来られました。

以下、ソレイユの皆様が感想を寄せてくださったので、ご紹介します(P3~6)。

長生炭鉱ピヤを訪ねる旅

宮下

「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の方のお話と案内で現地を回りました。

長生炭鉱跡地海岸に立つと、海面に突き出た2本の円筒形の造形物が見えました。犠牲者の墓標となったピヤと呼ばれる排気口、竪坑です。たびたび出水を繰り返した危険な炭鉱なので、地元の人には就労を避けており、事情を知らない朝鮮の人が80%を占めていたそうです。危険を感じて逃亡する人が後を絶たず、連れ戻されてリンチされなくなった人も多くいたそうです。安い賃金は強制的に貯金させられ、監禁状態で炭鉱と寮を往復、劣悪な環境で長時間就労させられる生活だったといえます。出水時、生きながら坑道に閉じ込められた人々の遺骨は海の底に眠ったままです。

この痛ましい事故を歴史に刻むため、地元の方の皆さんが1991年に「会」を結成し活動を続けておられます。その活動は、①資料・証言の収集、たよりの発行 ②宇部市や山口県に劣化するピヤの保存を要請中 ③念願の追悼碑建立(2013年2月に市民募金1500万円で建立)

2013年から韓国遺族会の強い願いである遺骨の発掘返還が会の新たな目標となり、日本政府・韓国政府と交渉。日本政府は昨年2回交渉したが動きなし。韓国政府は今年6月交渉後、翌7月に来日し現地訪問したそうです。

長生炭鉱跡地海岸のコンクリート防波堤に、「長生炭鉱と石炭産業」と題するプレートが設置されていました。強制連行や強制労働、法律違反

の炭鉱であったことなどは明記されない不十分なものですが、会の働きかけで宇部市が今年3月にやっと設置したそうです。

「会」の共同代表である井上さんは、「遺骨は骨にすぎない。しかし、私たちは無念の死の果てに骨となったその遺骨を暗闇から掘り出し、光を当て、その遺骨に肉を付け、服を着せ、魂を引き寄せて犠牲者の尊厳を復活させねばならない」といわれました。

追悼碑の後方に、事故時の坑内の様子を韓国の方が証言などをもとに書かれたという絵がリアルで衝撃を受けました。この旅で犠牲者への鎮魂の思いを深くしました。自治体の向き合い方の弱さや日本政府の対応にもどかしさを感じました。困難な中で「会」や市民の方々が地道に活動されていることに敬意を表し、希望をいただいて帰路につきました。



海に沈んだ炭鉱「長生炭鉱」を訪れる

内田 功

ソレイユの仲間たちと長生炭鉱跡を訪れる。広いどこまでも穏やかな海が広がる。快晴。美しい。そして、知らない人が見たら何かのモニュメントのような2本の「排気口」が、その穏やかな水面に突き出ている。この下で、77年前、1942年、悲惨な水没事故は起きたのだ。

炭鉱の事故は沢山ある。問題は、その犠牲者の多く(183人)のうち136人が、強制連行に等しい状態で連れてこられた韓国、朝鮮の方々であること、その事実が長いこと伏せられ、人々の記憶から消し去られようとしていたこと、そして慰霊碑すら、ようやく7年前、2013年に建てられたこと、それに遺骨は引き上げられておらず、未だに海底に放置されたままであることだ。

「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の長期にわたる粘り強い活動によって、犠牲者の家族との連絡が取れ、やっと「合同慰霊碑」の建立が現実になろうとしていた時、韓国の犠牲者の家族から強い抗議が出た。



長生炭鉱追悼ひろば
2013年2月、多くの市民の協力と募金で建設された追悼碑。左側には「強制連行 韓国・朝鮮人犠牲者」右側には「日本人犠牲者」と記しています。

それは、合同の慰霊は出来ない、日本人とは分けてくれというものだった。心情的にはとてもよくなる。彼らにしてみれば、半死半生の目にあわされながらの強制労働、あるいはリンチ、殺された人もいる。そんな日本人と一緒に慰霊碑に収められ、それへも手を合わせるようになることなど、到底許されることではないだろう。会の人たちは『広い意味では、この日本人も「戦争犠牲者」なのだ』ということを得てもらうにはまた大変な努力があったという。

そして慰霊碑建立で、ようやく日本人としての最低の役割を果たしたと安堵した除幕式の席上で、犠牲者の家族に突き付けられた要求「お骨を引き上げてくれ」という言葉が胸をえぐる。まだ終わっていないかったのだ。お骨を引き上げて初めて、役割をおえられる。頭を叩かれた思いだったという。すべてがボランティアの活動なのだ。政治を動かさなければならぬ。大変な作業だ。し

かしやらなければならぬ。

我々はピーヤの海に献花をする。波に乗って花が漂う。海底に届けとアチミスルをうたう。

このピーヤの見える海の防波堤の、ここで何が起ったのかという、事実を知らせるプレートがずっとなかったという。それがやっと、本当にやっと今年の2月に出来た。驚きの事実だ。しかも、内容は183人が犠牲となったというだけのもの。強制連行や、奴隷のような状態だったことなどはもちろん記されていない。それでもここまでこぎつけたのも、「刻む会」の実に粘り強い市への働きかけがあって実現したものだ。

この旅を通じて、改めて戦争というものの悲惨さと、日本の「加害の歴史」を思い知るとともに、今日に生きる私たちがやらねばならない行動を突きつけられた思いでいる。

長生炭鉱と石炭産業

宇部市は石炭によって発展してきました。石炭は黒タイヤと呼ばれ多くの利益をもたらしてきました。一方で、地下や海底で作業を行う炭鉱では、事故により多くの犠牲者を出してきた歴史があります。長生炭鉱は大正三年(一九一四年)に開鉱された海底炭鉱で、最盛期には炭鉱内外で約千名の人々が働き、年間約一六万トンの石炭を産出していました。昭和十七年(一九四二年)二月三日、本坑口から約一キロメートルの坑道内で異常出水し、坑内で働いていた一三六名の朝鮮半島出身者を含む一八三名が犠牲になりました。

眼前の海中に立つコンクリートの四柱二基はピーヤ(坑)と呼ばれる、坑道内の換気のための竪坑で、当時の長生炭鉱の名残りを今に伝えています。

周辺では新浦炭鉱(大正八年開鉱)や常盤炭鉱(昭和二年開鉱)などでも石炭の採掘が行われていました。

平成三年(二〇一九年)二月



ピーヤが見える海の防波堤に宇部市が今年2月に設置したプレート

「被爆したぼく」と「ピーヤ」を訪ねる旅

—「河を流れているような」「海の墓標」の
舞台を訪ねる旅— 「ついで」

S 斉藤

来年7月の演奏会を目指して今、私たちが取り組んでいる二作品を訪ねる旅(11/4〜5)に、総勢13名で行ってきました。

「広島」も「ピーヤ」の宇部「も命を軽んじられ、死しても供養されず、その死を悼む家族、祖国の元に戻れずに彷徨っている靈魂を感じた旅でした。

広島記念館では被爆で亡くなった方、ひとりの生き様や遺品を丁寧に紹介していました。痛みしさ、苦しみ、悲しみ、そして理不尽に命を奪われた怒りを感じました。しかし説明文は小さい文字で辺りは暗く大変読みにくかったです。相変わらず暗く黒い部屋が続ぎ、凄惨な絵が壁一杯にしめられたところに到達すると早くこの場から立ち去りたくなりました。私でさえそうですから、子ども達にとって「恐怖」しか伝えられないのではと疑問をもちました。



平和記念公園内はいろいろなモノコメントがあります。一つ一つゆっくり巡りました。案内の大中さんから『ぼちぼち』歩いてや」と言われました。そこかしこに原爆で亡くなられた方が埋

められた場所でもまだ遺骨が埋まっているところもあるのでは？ということになります。墓だと「ぼちぼち」をかけたのですね。ちょっと笑えないなあと思いつながら、「4・3」の犠牲者が埋まっているという済州空港の話しを思い出しました。峠三吉の碑は、みんなと同じ高さにしてくれとの三吉らしい要望で低い碑でした。その近くに原爆の中、生き残ったアオギリの葉が風に揺られていました。被爆で足を失った女性に生きる勇気を与えたアオギリ。熱線と爆風をともに受け枝葉はずべてなくなり、幹は爆心側の半分が焼けても翌年の春になって芽吹いたというアオギリの生命力に驚くと共に、焼けた痕を残したアオギリに私たちはこたえないといけないと思いました。原爆の被害者は人間だけではないのですから。

翌朝、路面電車で広島町の町を眺めながら広島駅へ、そして新幹線、宇部線と乗り継ぎ床波駅に着きました。「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の共同代表井上さんに事故の概要を分かりやすく説明して頂き、昼食後、用意して頂いた車で「西光寺」にうかがい犠牲者たちのご位牌を一基ずつひろげて拜ませて頂きました。その後「刻む会」・遺族・市民との協力で十何年かけて作った「長生炭鉱追悼ひろば」に。「水非常」の様子がわかるように工夫されていました。また韓国の遺族から韓国人、日本人の犠牲者の名を一緒のところに並べて欲しくないと要望され慰霊の碑も二本起っています。私は二本のピーヤのようにも見えましたが。そしてそこから車と徒歩で「殉難者の碑」、炭鉱に入る前にお参りした祠跡や坑口あたりではないかと思われるところへ。そして坑入口の藪から海に目を向けるとそこには「ピーヤ」が！

ピーヤ……。やっとこの地に来た。夢中で海岸に降りると、思っていたよりずっと近くに感じました。波が寄せる音だけの静寂の中、私たちは

「朝露」を歌い、海へ献花しました。波が寄せかえす中、なかなか沖に流れていかない白いカーネーション。冷たい海の底に残されている男たちの無念の思いを感じました。

韓国の遺族といろいろ話し合っていて、そして1500万円の募金を集めて「長生炭鉱追悼ひろば」を完成したとき、自分たちは達成感で舞い上がっていたが、韓国の遺族に「これで幕引きにするつもりではないか、遺骨を私たちの元に返して欲しい」と言われ、頭をガツンとやられた感じだったと話す井上さんの姿勢に頭が下がる思いでした。井上さんたちは、私たちが今回現地へ赴くということ、歩く道を作るために藪を刈って下さったこと、本当に有り難く、「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の皆さん、韓国の遺族の方々の思いに寄り添って、活動に邁進なさっている様子に畏敬の念を感じました。

原爆と炭鉱、戦争、国家・資本の政策で奪われた命たち。死しても家族の元に戻れていない遺骨たち。人間の尊厳に国境はない。遺族の立場になってみれば、手が届きそうなピーヤの下に家族がいると思ったり、いても立ってもいられないと思います。早く遺骨発掘ができるように、「海の墓標」をしっかりと歌っていかねばと思いません。



○広島、山口への旅

アルト 菊地純子

今回、何十年ぶりとなる原爆資料館をまず訪れた。大中さんからのとても丁寧な説明を聞きながらの公園周辺及び資料館内部の見学だったので、漫然と見て回るよりはるかに心に刻みこまれるものとなった。大中さんの言われるとおり、資料館の展示方法は再考ができればいいと思った。

2日目の山口も熱心に案内、説明して下さる井上さんはじめ、刻む会の方々のおかげで、心から「来てよかった！」と感じる旅となった。海中に立つ二本のピーヤをこの目で見ながら、波の音を聞きながら、思わず「海の墓標」の歌詞が口から出てきてしまった。これから「海の墓標」を歌う時、必ず、今日目にした光景、耳にした音が浮かんでくることだろう。刻む会の方々のあの穏やかな中にも揺るがぬ信念が迸り出るお姿を常に思いながら歌うだろう。本当に心からの感謝の気持ちを伝えたいと思う。

○広島、山口行って来ました

バス 小林 昇

私は、広島県 福山市 浦の浦の出身です。私の父は、危うく、原爆で死ぬところでした。父は、昭和20年5月、原爆ドームの近くにいた陸軍の本隊から、大阪に移動したため、無事でした。私は、小学校の修学旅行で原爆ドーム、平和公園、原爆資料館を訪れました。去年、法事の際に、原爆資料館を訪れたところ、リフォーム中でした。今回、5度目の訪問で、さぞかし見応えがあると期待していましたが、しかし、期待は大ハズレでした。館内は暗く、説明板は下にあり、文字は小さく、ほとんど読めませんでした。原爆資料館は、中学生などの修学旅行、外国人も沢山、訪れます。早急に改善して頂きたいと思います。

被団協の大中さんがガイドをして下さいました。大中さんは、大変分かりやすく、丁寧な説明でした。大中さんは、夜の懇親会にも参加して頂きました。

山口県宇部市の長生炭鉱跡を訪問しました。私は、長生炭鉱のことを全く知りませんでした。朝鮮半島から多くの人が強制連行され、強制労働させられ、殺されました。強制連行された人の数は、60〜70万人と言われています。現在、日韓関係は最悪と言われています。この根本には、アベ政権が日本が朝鮮半島を植民地支配したという、歴史に無反省ということがあると思います。朝鮮半島の遺族の人々が遺骨の返還を求めているのは、当然だと思います。遺骨の返還を実現するには、多くの人々の協力が必要だと思います。1日も早い、遺骨の返還を願ってやみません。

○広島とピーヤを訪ねる旅

A 中田 洋子

友達と広島資料館が新しくなったので言ってみたくとツアーを探していたところ、ソレイユで行くことを知り、友達と一緒に参加させてもらいました。

広島は私が思っていたより立派な町になっていて、ここに原爆が落とされたのかと思いましたが、ドームがなければわからないと思いました。74年もたったのだから、あたりまえだと思いつつ、人間の力はすばらしいなと思いました。そしてドームはいつまでも残してほしいと思います。川沿いを歩きながら、皆んなこの川に飛び込んだのかと思いつつ、ドームをぐるりと一廻りしました。

資料館では、絵の方が多く写真はあまりなく、うす暗く、曲がり角も多くて見にくかったような気がしました。

二日目は宇部の方に、そして西光寺、追悼の広場等を見て廻り、ピーヤへ砂浜に降り、この下にはまだ遺骨が眠っているんだと思うと、冷たい海の底から早く出してほしいと思う遺族の人の気持ちを感じ、男たちも早く祖国に帰りたいだろうなと思いつつ、ピーヤをながめていました。

海の墓標が重く心の中に残る旅でした。

活動日誌 前回はより以降

121212	12111111111111	11	1111	1010101010	10101010	10	10	10	10	9
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
191513	11242221211716	13	11	2725252022	19191714	12	10	10	10	30
(木)	(日)	(水)	(火)	(日)	(木)	(土)	(木)	(木)	(水)	(月)
第8回運営委員会欠席1名	山口県議会議員との懇談会(山口市)	山口朝鮮初級学校補助金力ツトに対する抗議座り込み行動及び座談会参加(山口市)	合唱団ソレイユFW	石炭記念館シンポジウム参加	無窮花追悼式参加(飯塚市)	山口県退職教職員協議会下関支部学習会講師派遣(下関市)	第6回運営委員会欠席3名	大嶺炭鉱FW参加(美祿市)	山口朝鮮初級学校補助金力ツトに対する抗議座り込み行動及び座談会参加(山口市)	筑豊FW参加(飯塚市)
				第43回問題解決協議会(宇部市)						
				韓国・5.18民族統一学校FW						
				講演会「日韓請求権協定のほんとうの姿とは」(参加下関市)						
				民の集い参加(山口市)						
				山口朝鮮初級学校補助金力ツトに対する抗議座り込み行動及び座談会参加(山口市)						
				いきいきフォーラム参加(阿川)						
				広島韓人会FW						
				愛知人権啓発企業連絡会FW下見						
				韓国・トンポネット市民団体FW						
				第7回運営委員会欠席3名						
				BIYP学習会参加(山口市)						
				山口朝鮮初級学校補助金力ツトに対する抗議座り込み行動及び座談会参加(山口市)						
				山口県議会議員との懇談会(山口市)						
				BIYP学習会参加(山口市)						
				山口県議会議員との懇談会(山口市)						
				第8回運営委員会欠席1名						

広島韓人会フィールドワーク

広島から韓人会の方々が16名でフィールドワークに来てくださいました。お供え物も持参して、チェサもしてくださいました。徴用工問題は、この海に捨て置かれた136名の朝鮮半島の皆様の遺骨を故郷にお返しするまでは終わりにはならないと改めて思いました。



愛知人権啓発企業連絡会の方が来年5月のフィールドワークの下見に来られました！



愛知県の企業を中心に作られている愛知人権啓発企業連絡会の方が、来年5月に長生炭鉱のフィールドワークに訪れたいとのことで、担当の方が、わざわざ下見に来られました。

実際には25～26名の参加予定ということで、基本的には電車と歩きで現地フィールドワークを行うということなので、実際のルート歩き、時間配分を考えて一緒に計画を作成しました。

通常、主な見学地点が点々としていることもあり、車で移動しながら、一部分を徒歩でという行程が多いので、今回、床波駅を出発し、床波駅へ帰るまですべて徒歩という方は少ないです。

今回企画してくださっているのは、大手企業の方々の集まりです。

研修のねらいは「企業の立場で同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の解決をめざすには何が必要であるか」、学びのポイントとして「戦前、宇部の炭鉱で一番きつい部分を担わされ、1942年長生炭鉱水没事故では、一瞬にして183名の方が犠牲となり、そのうちの7割強、136名が朝鮮人労働者である。現地で研修を行い、『戦争は最大の人権侵害である』ことを学ぶ」とされています。

日本を経済的に支えている企業の方々が、このように日々研修を重ねておられるというのはとても素晴らしいことですね！



広島・中国人強制連行西松安野和解10周年 記念行事に参加して

運営委員 松元一也

10月19、20日、広島の中
国人強制連行・西松安野和
解10周年記念行事に参加し
ました。

19日(土)は広島弁護士会
館で『改めて歴史問題の和解
を考える』集会です。100
人近い参加視野で、若い人も
いました。



碑(中電の土地)

刻む会たより No.75
で振り返る和解事業を紹介しました。③遺族2人の
挨拶がありました。許立成(シィリツェン)(許法

奎の息子)さんと肖翠青(シャントウチン)(肖吉作
の孫娘)さんです。二人とも父や祖父が中国に帰っ
ても大変な生活だったことと、日本人への感謝を感
じるように変わってきたことを言われました。

第二部では、外村 大(東大大学院教授)さんから
「和解と戦後日本の変容」の講演がありました。在
日の歴史や植民地期の朝鮮、朝鮮人強制連行の研究
者です。

終わりに、質疑王都のなかで、川原事務局長が「安
野での朝鮮人強制徴用は800人くらいあったと
言われていますが、掘り起しの調査ができていない
ので判らないのが実情です」と述べたのが頭に残り
ます。

足立修一代表世話人からのまとめでは、「中国と
は和解するが、朝鮮とはやらない」という安倍政治の
姿勢を変えなくてはいいけません。皆も30年もたっ
て疲れもみえますが、もう少し頑張りましょう」と
締めくくりました。

20日(日)は、広島朝鮮学校から借りたマイクロバ
スで安野に向かいました。大学院生とか若い人もい
て幅広さを感じます。

①安野発電所入り口からフ
ールドワークがスター
ト。ここより8Km上流の取
水口から導通トンネルで
太田川の水が引き込まれ
て65m下の発電タービン
を回して川に還すシステ
ムです。このトンネルを掘
削する工事に360人の
中国人と800人の朝鮮



導水管左は戦後増設されたもの。右は斜
路ではなく戦前は直に落として発電。

人徴用工が強制的に連れ
てこられたのです。中国人
は4ヶ所に収容所があり
ましたが、朝鮮人徴用工の
実態は解明できていない
とのこと。

トンネルの出口にある、地
域を展望できる貯水池に上
り、そこで中国電力職員から
安野発電所の概要を聞きました。

また、香草収容所の監視員の息子、栗栖薫さん
から当時の状況が語られました。「別の工区には
10人ぐらゐの若い朝鮮人が家族4人と働いてい
ました。徴用工ではないかと思えます。その後ど
うなったかは分かりません。一家族だけが今も在
日しています。朝鮮人はダイナマイトでの発破作
業や掘削をやり、中国人は湧水の中で石出しのト
ロッコ作業をしていました」と。

②13時半から第12回追悼の集いが行われ、安芸太
田町町長をはじめ、多くの来賓が参加し、皆で献
花しました。

③今回来日された遺族
が働かされた香草収
容所と工事現場後
行き、栗栖さんの説
明を聞きました。こ
の近くにも朝鮮人の
工事現場があったそ
うです。

最後に、掘削で出た(中国人がトロッコで運んだ
大きな石で作られた法面を見て終わりました。



導水トンネル掘削で出た石の捨て場
(当時)、その石で作られた擁壁



中電の説明間<

【一般会計】

(円)

	科目	年度予算	期間実績	実績累計	率	備考
歳入						
1	会費	500,000	63,000	422,000	84.4%	
2	寄付金	1,000,000	107,200	501,929	50.2%	※
3	物販	33,000	11,700	35,950	108.9%	
	証言・資料集	25,000	10,700	25,000	100.0%	
	その他	8,000	1,000	10,950	136.9%	
4	雑収入	4,000	0	0	0.0%	
5	前期繰越金	11,306	0	11,306		
6	特別会計より繰入	0	0	0		
	合計	1,548,306	181,900	971,185	62.7%	
歳出						
1	事務費	65,000	7,552	23,939	36.8%	
2	広報費	240,000	64,534	155,116	64.6%	たより印刷送料他
3	会議費	30,000	0	0	0.0%	
4	追悼碑管理費	10,000	755	2,288	22.9%	電気代
5	活動費	1,040,000	65,267	239,864	23.1%	
	学習会等	90,000	3,040	70,086	77.9%	FW資料他
	追悼集会	650,000	0	0	0.0%	
	その他活動	300,000	62,227	169,778	56.6%	連帯派遣費用他
6	他団体会費等	30,000	10,000	25,000	83.3%	関東大震災関連2団体
7	雑支出	40,000	24,526	42,854	107.1%	
	手数料	30,000	8,126	26,454	88.2%	
	その他	10,000	16,400	16,400	164.0%	お花料
8	予備費	50,000				
9	特別会計へ繰出	43,306	0	0	0.0%	
	小計	1,505,000	172,634	489,061	32.5%	
10	繰越金	0	9,266	482,124		
	合計	1,548,306	181,900	971,185	62.7%	

※ 寄付者 (敬称略)

麻野 他郎 浅野 直人 猪股健太郎 井橋 昌夫 大岡 勝義 岡屋 義之 落合紀久子
 小畑 太作 斉藤 圭子 島村真知子 白川 猶子 関谷 陽子 田崎 敏孝 谷本 育紀
 中條 克俊 寺尾 光身 長澤連三郎 福田 紀子 文 夏子 正木 峯夫 松元 一也
 宮本 輝男 油谷 重雄 横山 正代 利元 克己 合唱団ソレイユ その他匿名 10 件

【追悼碑特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,605,224				
繰入金	0		繰越金	1,605,224	
合計	1,605,224		合計	1,605,224	

【遺骨収集等特別会計】

収入			支出		
科目	金額	備考	科目	金額	備考
繰越金	1,791,248		DNA 検体解析	14,580	1 名
繰入金	0				
			繰越金	1,776,668	
合計	1,791,248		合計	1,791,248	

以上感謝をもってご報告いたします。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

書籍のご案内

事務局で取り扱っている書籍のご案内です。ご希望の方は、事務局までご連絡ください！

真相究明ネットワーク発刊
「明治日本の産業革命遺産」
と強制労働
500円



証言資料集 全3冊
絶賛！好評発売中！
頒布価格 1冊 300円
2冊セットで 500円
3冊セットで 700円



韓国・真相糾明委員会発刊書籍

←『日本の長生炭鉱水没事故に関する報告書』
ご希望の方はカンパ 1000円でお送りします。

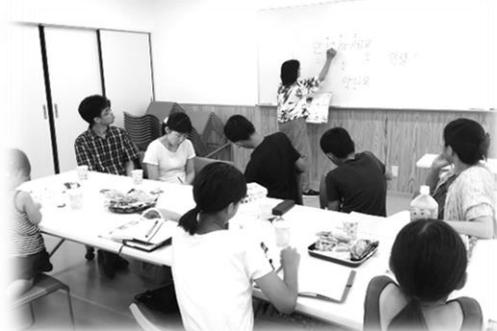
『委員会活動結果報告書』（日本語版）→
ご希望の方は、カンパ 300円(送料込)でお送り
します。



BIYP 韓国・プチョンの中学生との交流企画 5月の受け入れに向けて

人間いきいき研究会の企画であるBIYP韓国・プチョン市の中学生との交流は1年毎に韓国と日本で交互開催されています。2020年は日本側の受け入れの年で、現在受け入れに向けての準備を進めています。特に日本開催では長生炭鉱のフィールドワークも取り入れ、「刻む会」も4年前からこの企画を共催団体として協力しています。

現在、毎月第3日曜日に準備会を開催し、ハングル語の勉強や、受け入れの具体的な相談を行っています。興味のある方はご連絡ください。協力者大歓迎です！



11月16日(土)下関市阿川にて「いきいきフォーラム」が開催され、韓国からプチョンの中学生との交流の中心人物でもあるシンさん家族が来られ、韓国の家庭料理と阿川の郷土料理を食べながら、様々な活動報告を行い、楽しく交流しました。

事務局より 会員動静 (2019年12月08日現在)
正会員 116名 (当年度総会比+5名)
賛助会員 251名 (当年度総会比+14名)
寄付者 98名 (当年度総会比+23名)

「刻む会」は現在会員500名を目指しています！
知人・友人にぜひ一声お願いします！

今後の予定

- 1月16日(木) 第10回運営委員会
 - 1月31日(金) 13:00~ 追悼集会準備
 - 2月1日(土) 11:00~追悼式 14:00~講演会
- ※詳細は同封のチラシをご覧ください。

たより同封物
追悼集会チラシ
リーフレット